

落水水再生センター(その2)

『落水水再生センター』は中野区の全域(一部は中野水再生センター)、新宿、杉並、練馬の一部の下水が流入し、ここで処理されています。

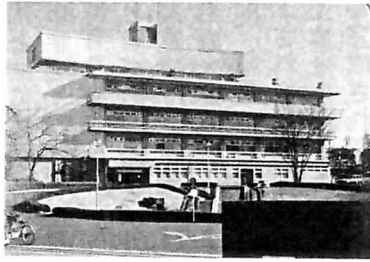
処理された水は(その1)で述べたごとく神田川に放流されますが高度処理された水は、新宿や中野坂上の高層ビル群のトイレ用水として再利用されています。さらに管理棟の冷暖房にも下水特有の熱源を利用してのことです。

このように設備は地下で自動的に処理され、臭気も外部では全く感ぜられず、放流された神田川は鮎が遡上するまでになり、否を見出だす設備はありません。

戦前早稲田通りはし尿の桶を積んだ大八車が列をなして江古田や練馬の方へ運ぶ光景が常に見られました。また汲取りに来る時は異様な臭気、特に食事時期など耐えられませんでした。

今は水洗が常識、臭気の事も気にせず快適な日常生活が出来るのも、下水処理場が十分機能を発揮しているからで、そのありがたさを心から感じざるをえません。

敷地面積	85,143 m <sup>2</sup>
計画処理人口	781,000 人



(水再生センター本館)

東中野小学校入学式

3月23日には第47回の卒業式、4月6日には入学式が行われ、両方の式典に出席を致しました。

私は旧東中野小学校の最初の一年生(昭和7年)として入学した当時の事を思い出し、万感胸に迫る思いがありました。

式典は往時と比べると内容はだいぶ変わりましたが、大きな変化はななくどちらも明るくユーモラスに遂行され、来賓として出席した我々に大きな感動を与えてくれました。只一番に感じたのは入学生の余りにも少ないこと。渡された案内書を見ると24名と記され、1学級しかないと言うことです。



本年4月6日

昭和31年4月昭和小学校の分校として6学級289名で開校し、昭和34年には16学級737名を最高に以後40年代、50年代前半までは600名前後で推移して来ましたが、平成に入ってから

減少し続け、現在は7学級200名を切る生徒数にまで減少しています。生徒は少なくとも表情は明るく元気で、上級生の仲間と会釈する光景は何とも微笑ましく頼もしく感ぜられました。



昭和31年頃(40周年記念誌より)

